

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	公共交通対策特別委員会	会議場所	第3委員会室
		担当職員	鈴木智
日 時	平成28年5月25日(水曜日)	開 議	午後 1 時 30 分
		閉 議	午後 2 時 35 分
出席委員	石野 酒井 奥野 田中 小松 小島 明田		
執行機関出席者	[まちづくり推進部] 桂部長、竹村事業担当部長 [都市計画課] 関口課長 [政策交通課] 伊豆田課長、川内係長		
事務局出席者	鈴木議事調査係長		
傍聴者	市民0名	報道関係者0名	議員0名()

会 議 の 概 要

13:30

1 開議

[石野委員長 開議]

[事務局 日程説明]

[まちづくり推進部 入室]

13:32

2 議題

平成27年度事業報告及び平成28年度事業計画について

<まちづくり推進部長>

[出席職員紹介]

コミュニティバス、ふるさとバスの利用促進や子どもたちへの交通環境学習など充実した地域交通の実現に向けて取り組んでいる。今後もよりよい公共交通を目指していきたい。

13:33

[政策交通課長 説明]

・コミュニティバス、ふるさとバス、京阪京都交通バスにより市内の公共交通ネットワークを形成するのが現在の状況である。

・コミュニティバスは平成16年度から本格運行開始し、東コース10便、西コース16便を1台のバスで運行している。今年2月24日に市道中矢田篠線が開通したことにより、篠町牧田方面を周回するバスを運行している。

・ふるさとバスは平成17年度から運行開始し、5路線13系統を5台のバスで運行している。H28年度は交通空白地域解消に向けて東別院町自治会がデマンド方式の交通事業を実施いただく予定である。

13:35

[政策交通課長 資料に基づき説明]

〔質 疑〕

<酒井副委員長>

バス・エコファミリー事業は11月の土日に実施されたが、実施しない月との相違等その効果について説明いただきたい。

<まちづくり推進部長>

乗車人員等を比較する資料がないため、改めて委員長に報告させていただきたい。

<小松委員>

西つつじヶ丘美山台から鍬山神社まで運行している京阪京都交通バスの路線の利用者数について把握しているか。

<政策交通課長>

把握していないため、改めて委員長に報告させていただきたい。

<小松委員>

高齢者用のバス乗車パスに関してどのように取り組んでいるのか。

<まちづくり推進部事業担当部長>

2月に京阪京都交通バスに市職員が乗り込み、乗客の年代や行き先等の状況を確認した。数字の解析等をする中でよい方法がないかを考えていきたい。亀岡市のふるさとバス、コミュニティバスだけを対象にすると行政の負担が増えるので、できれば京阪京都交通とも一緒に取り組んでいきたい。

<奥野委員>

畑野町から亀岡運動公園までのバスの乗り継ぎがよくないとの声を聞いている。改善は可能なのか。

<政策交通課長>

京阪京都交通との関係やふるさとバス、コミュニティバスとの連携も考慮する必要がある。乗客の利便性を踏まえ、様々な事情を勘案しながら進めていきたい。

<まちづくり推進部事業担当部長>

実施できない状況ではない。例えば亀岡運動公園まで運行している路線をガレリアかめおかまで引っ張ることができないか等検討したい。また、営業路線との兼ね合いもあるのでもう少し時間をいただきながら検討していきたい。

<奥野委員>

時間はかかると思うが検討していただきたい。

<田中委員>

篠町と東別院町以外の交通空白地域とはどこを認識しているのか。また、その改善策は。

<政策交通課長>

交通空白地域としては中部地域の鹿谷にもあると認識している。東別院町自治会での取り組みを応用することや路線の変更等によって解消できないか検討していきたい。

<田中委員>

いつ具体化されるのか見えてこない。地域の人たちは高齢化しており、早く解消してほしいというのが切実な声である。もっと積極的に取り組んでほしい。

<奥野委員>

タクシーは公共交通機関と位置づけているのか。

<まちづくり推進部事業担当部長>

タクシーについても公共交通機関として認識をしている。亀岡市内ではJR、タクシー、バスが公共交通機関である。例えば、他市でデマンドタクシーを使っている例もあるが、亀岡市としてはタクシーに関してどのような施策を実施するかまでは考えていない。

<酒井副委員長>

バス・エコファミリーは効果が薄いようであれば不要だと考えている。

桜シャトルは京阪京都交通の負担で運行されているが利用は無料なのか。また、目的は何か。

<まちづくり推進部事業担当部長>

桜シャトルは京阪京都交通が花見シーズンに自主的に実施されており運賃もとられている。桜が咲くタイミングをつかみにくいので広報するタイミングも難しいと考える。

<酒井副委員長>

時刻表をオープンデータ化しておき、バス利用者が時刻表を見やすいようなアプリを開発させる考えはあるか。

<政策交通課長>

検討したい。

<酒井副委員長>

行政職員がアプリを開発するのではなく、データを開放しておくことによって便利なアプリを開発する人が出てくると考える。

<石野委員長>

篠町のコミュニティバスのアンケートの配布先はどこか。

<政策交通課長>

利用者と利用していない方へもアンケートを行う。なぜ利用されないのかという声も踏まえて修正を加えていきたい。亀岡地区でのコミュニティバスは、運行当初は4人程度の利用者であったが、現在では地域に根づいている。篠地区についても地域に根ざした公共交通にしていきたい。

<石野委員長>

篠町王子にも回ってもらえたらという声もある。コミュニティバスは便利だと考えるがこのような声も考慮いただきたい。

<政策交通課長>

王子についてもアンケートの内容を反映できればと考える。

<明田委員>

コミュニティバスは駅をはじめ、主な施設、病院等を回るようにしなければ、通勤時間帯以外では乗客が少ないと思う。他の自治体では、利用者は運転手と会話するのが楽しみで乗られる方もいると聞く。

[まちづくり推進部 退室]

14:25

委員会調査について

<石野委員長>

今後の特別委員会の進め方についてご意見をいただきたい。東別院町での地域交通の取り組み等について執行部からの報告とともに調査を進めていくのも一つの方

法かと考える。

< 明田委員 >

乗客が多く見込めない地域についてはタクシーをうまく利用する方が行政の負担は軽くなるのではないか。

< 石野委員長 >

東別院町でのデマンド方式の取り組みについて、車両は市が購入するのか。

< 議事調査係長 >

市は東別院町へ補助金を支出するのみであり車両は購入しない。

< 奥野委員 >

東別院町での取り組みは、本市の他の地域でも参考にできないか見ていきたい。また、近隣自治体での先進事例も視察してはどうか。

< 酒井副委員長 >

予算特別委員会では、東別院町への補助金に関しては要綱ではなく条例化するべきとの意見もあった。視察を行うのであればその事例を本市に適用できるかどうかを検証してから実施するべきである。

< 石野委員長 >

東別院町での取り組みを視野に入れて特別委員会を実施していければと考える。

< 酒井副委員長 >

条例化について本委員会委員の意見はどうか。

< 明田委員 >

もう少し様子を見ていく必要があるのではないか。委員会としては実施主体と意見交換する等について考慮していけばよい。

< 田中委員 >

東別院町でのデマンド方式に対する補助金だけでなく、市としては補助金交付要綱に基づくべきであり、全体を踏まえて考える必要がある。

< 酒井副委員長 >

執行部から報告があるまで委員会は待っているということでよいか。

< 明田委員 >

東別院町ではこれまでなかったことに取り込まれるので、委員会としても注目していきたい。一度東別院町のデマンド方式の事業に対する評価をするべきである。

< 酒井副委員長 >

委員会を1年に1回だけ開催するのではなく、時期をみて委員会を開催するのがよいと考える。

< 明田委員 >

東別院町でのデマンド方式については、正副委員長とまちづくり推進部で相談していただき特別委員会を開催してはどうか。

3 その他

次回委員会

< 石野委員長 >

適切な時期に特別委員会を開催することとする。

散会 14 : 35